

「仲間との協働の場」



藻谷ようこ（ポート・オブ・サクラメント補習授業校）

「仲間がいる」心強さ。AG 5・AG+が補習校にもたらしにくださったものは数多あると思いますが、私にとっての最大の恩恵は、自分には世界中に仲間がいて励まし合える、という支えでした。

補習校とはとても特殊な学校です。2026年現在、世界に246校あるそうですが、全生徒数何百人もいる大規模校もあれば、1

学年に数人しかいない小規模校もあります。サクラメント  は中規模校といえるかもしれませんが、コロナ禍から担任を持つことになった私にとっては、出だしからチャレンジの連続でしたから、オンラインで他の学校の先生方と情報を共有できるということは大きな心の支えでした。

規模がある程度大きくても、週に1度の補習校では、職員室で日々他の先生方と会話をするような時間が少なく、教えることが孤独な作業になりがちです。週に1度といえど、いやだからこそ、教育機関として当然、人との関わりが重要になりますが、そんな中、自分の教育観を揺るがされるようなこと、そこまで大げさでなくても、ちょっと心にひっかかることが日々起こるものです。

そんな時、自校の先生方、運営関係の方々、そして保護者の方々のお力が身近にあるだけでなく、補習校ネットを通じて知り合った、驚異的な情熱を持ってすばらしい活躍をされている先生方が他校にいらっしゃること、更には佐々先生や三井先生、そしてOBOG 部会委員長の岡村先生をはじめ、JOES 関係者の皆様がお忙しい中、親身になってサポートしてくださっているということに、どれだけ励まされ、前を向いて進んでいく力を与えられたかわかりません。

情報交換会などの補習校教員のためのサポートシステムは、単なる支えではありませんでした。それは教員の学びの糸口を提供してくれるものでした。自分の信念や前提が揺らいだ時、ただそ

の枠組みの中に引きこもろうとしたり、自暴自棄になったりするのではなく、様々な視点から捉え直し、自ら調整していくこと、それこそが学びだという気づきをくださっていたのです。教員こそ、学び続けることが大事であるということ、そして、学びは喜びであり、教育の目的は更なる成長である、という原点を思い出させてくれました。

とはいえ、その学びをしっかりと自分のものにして実践に活かすことができているかというところ…ちょっと疑問もあるかもしれません。でも本当に多くのことを学ばせていただいた気がします。私がこれまで教員生活を続けることができたのは、これらの支えがあったからだと言言できます。

補習校についての個人的な思いは「『補習校』の『本当のメリット』とは」と題して以前書いたものもあります。その思いは現在もほぼ変わっていませんが、これから時代とともに変化していくこともあるとは思いますが。

補習校という特別な学校に対する理解が、AG+のようなしなやかで多岐にわたる取り組みによって、少しでも広まってくれたら嬉しいと思います。これまで関わる機会があった皆様、今まで本当にありがとうございました。日本につながりのある子供たちは日本の、そして世界の未来の宝だと思います。この子供たちのためにできることを考え、みなさんと学んでいく機会が今後もあることを切に願っています。